

あのねノート

村山靖子さん(岐阜県岐阜市・主婦)

四歳さいちが違いの妹は、いつもお姉ちゃんあねちゃんのまねをする。お姉ちゃんあねちゃんがマイク片手かたてに歌を歌えば、同じようにマイクらしきものを持ってきて歌を歌う。お姉ちゃんあねちゃんが布団ふとんの上で、でんぐり返しの練習をすれば、ごろごろ転がってその気になっている。時々ぶつかって重なりあい、お姉ちゃんあねちゃんに怒おこられると、畳たたみの上に座布団ざぶとんをして、またごろごろ転がっている。

ある日、「あのねノートを書いたからママも書いて。」と、小さな手帳てちょうを持ってきた。見ると、手帳の罫けい線せんの上にびっしりと何かが書き込まれている。あのねノートは、小学校一年生になった姉が、学校の宿題で毎日書いている『先生あのね……』で始まる日記である。四歳さいちが違いの妹にまだ字が書けるはずもない。が、

と言うと、得意とくい満面まんめんの顔かおでよどみなく読んでくれる。「せんせいあのね、きょうは……。」何回なんど読んでもらっても同じ事を言うので、まさに文字に間違まちがいがない……と思う。

姉のあのねノートには、赤字せきじで毎回先生のコメントが添そえられる。というわけで、毎日その小さな手帳に書かれたできごとに、私が赤字せきじでコメントを書くことが日課にっかとなった。もちろん、私の書いたコメントを読めるわけもないので、書くたびに読んであげること



「雪合戦」 田端智美さん(名古屋市中区・大学助教)

手帳の線と線の間には、はみ出すこともなく几帳面きちょうめんに書かれているのは、「字」なのである……らしい。そして、残念ざんねんなことに私わたしには読めない。「なんて書いてあるのか読んでみて。」

なるが。

そしてこの習慣しゅうかんは、小学校に入学してからも続つづいた。学校へ提出ていしゅつするあのねノートに、毎日私が赤字せきじでコメントを書き入れ、その横に先生が更さらにコメントを書いてくださる。本人と先生にぜひ続つづけてとお願いされたからだ。

小さな手帳に、びっしりと書かれた読めない文字の横に書かれた私の字、あのねノートに書かれた先生と私の字。時折ときおり、引っぱり出して読むらしい。

五年生の娘の宝物たからものだそうだ。

います。

今、ボランティア活動で子どもや親おやごさんたちと接あっています。時に『ワニの飼育いく』の話はなしをします。僕は小学生の時にワニを飼かっていました。半年たっても大きくならないので、病気だと思つてペット店に相談すると、「ワニは病気じゃないよ。入れ物が小さいんだよ。」と教えられました。そこで、ワニを大きな飼育いくケースに移うつすと、ぐんぐん成長せいちょうしました。

これから成長せいちょうしていく子どもたちが、落ち込こんでいる時には、僕は一緒いっしょに木に登のぼってあげて「自分の殻かに閉とじこもらないで！ワニに負けないで！」と励はげましているのです。

プロフィール

タレント、コラムニスト、農学博士。アメリカオレゴン州に10人家族の長男として生まれる。自然をこよなく愛し、ツリークライミングを初めて日本に紹介。瀬戸市で味噌樽を利用したツリーハウスに住む。



JOHN GATHRIGHT
ジョン・ギヤスライトさん

親子の絆

ワニに負けないで!

いつも笑顔えがおで幸せしあわせそうな僕ぼくですが、実は十歳じゅうさいの頃ころアメリカの学校でいじめにあっていました。やがて学校嫌がっこうきらいになり、勉強べんけんもだめになった時に、ふとおじいちゃんおじいちゃんがツリークライミング(木登り)に誘まねってくれたのです。二人で力を合わせて登ると、今まで見たこともない町や山が一望いちぼうできましました。思わず感動の「ヤッホー。」です。僕は木登りが大好きになり、一人で楽しんでいると、いじめっ子いじめっこたちは僕の行動こうどうに興味きょうみを持ち、いつの間にか仲良なつかくみんな木に登るようになっていました。「自分が楽しいと思うことをやっていたら、友達ともだちは向こうからやってくる。」大人おとなになった今でも、おじいちゃんおじいちゃんの言葉が心に残のこっています。